

構造設計標準仕様

適用は 黒印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 厩舎(岐南第3区画, 岐南第4区画)新築工事

建築場所 岐南3区画 岐阜県羽島郡岐南町薬師寺8丁目36番, 37番, 38番, 39番, 40番, 41番, 43番, 44番, 45番

建築場所 岐南4区画 岐阜県羽島郡岐南町薬師寺8丁目28番, 29番, 30番, 31番, 32番, 33番, 34番, 35番

(2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築

(3) 構造種別 木造(W) 補強コンクリートブロック造(CB) 鉄骨造(S)(屋外階段) 鉄筋コンクリート造(RC) 壁式鉄筋コンクリート造(WRC) 鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC) プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)

(4) 階数 地下 階 地上 2 階

(5) 主要用途 厩舎, 共同住宅の鉄骨階段

(6) 屋上付属物 広告塔 高架水槽 ton 煙突 キュービクル ton

(7) 増築計画 有 () 無

(8) 付帯工事 門塙 擁壁 受水槽, 調整池

(9) 特別な荷重 エレベーター 人乗(ロープ式 油圧式) リフト ton ホイスト ton 倉庫積載床用 1F, 2F kN/m² 受水槽, 調整池

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	スランプcm	備考
捨コンクリート	普通	15, 18	18	
土間コンクリート	普通	18, (21)	18	
基礎, 基礎梁, 基礎柱	普通	18, (21), 24	18	
柱, 梁, 床, 壁	普通, 軽量	18, 21, 24	21	
ラップルコクリート	普通, 軽量	18, 21, 24	18	
押えコンクリート	普通, 軽量	15, 18	15	

(1) -2 コンクリートの材料
セメント、骨材、水、混和材料は、建築工事共通仕様書(平成22年版)第6章コンクリート工事 第3節による。

(2) コンクリートブロック(CB)
A種 B種 C種 厚 100 120 150 190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	SD295A D16以下	基礎, 地中梁	重ね継手
	SD295B		
	SD345 D19以上	基礎, 地中梁	ガス圧接継手
丸鋼	SR235		特殊継手
溶接金網			()

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼材	SS400 SM400A, B 梁	有 無	
	STKR400 BCP325 柱	有 無	
	SN490B BPL	有 無	
	SN490C ｸﾞｲﾌﾞﾗﾑ	有 無	
	SSC400 鋼線	有 無	
	TMCP325C スマートダイヤ ｸﾞｲﾌﾞﾗﾑ t=40	有 無	
	SS400 小梁	有 無	

(5) ボルト 高力ボルト 普通, F8T 特殊, S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22) 中ボルト φ=9 φ= 高力ボルトすべり係数試験 要 否 アンカーボルト SS400 M16 L=320mm ナット(シングル, ｸﾞﾚｰﾄﾞ) ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ φ= L= mm

(6) 屋根、床、壁 ALC版 厚 折版 型式 H=166 厚 t=0.8

3. 地盤

(1) 地盤調査資料 有 (敷地内 近隣) ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定 無 (調査予定 有 無)

(2) 地盤調査計画 ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定 土質試験 物理探査 平板載荷試験

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成(基礎、杭の位置を明記すること)

深度	土質試験	換算N値	標準貫入試験							調査地番
			GL	10	20	30	40	50	60	
0.1										○位置図
0.2										
0.3										
0.4										
0.5										
0.6										別紙参照
0.7										
0.8										
0.9										
1.0										
1.1										○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
1.2										
1.3										
1.4										
1.5										
1.6										○孔内水位 GL m
1.7										
1.8										
1.9										
2.0										
2.1										○近隣データの調査地番と調査地番とは約 mの距離がある
2.2										
2.3										
2.4										
2.5										
2.6										○備考
2.7										
2.8										
2.9										
3.0										

4. 地業工事

(1) 直接基礎 べた基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有 無

(2) 杭基礎 深さ GL- m 支持層 長期許容支持力度 20KN/m² 載荷試験 有 無

(2) 杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
RC PC PHC 鋼管 摩擦杭 PHC節杭	PC (A種 B種 C種) PHC(A種 B種 C種) 鋼材 SS400 STK400 SC PL9	打ち込み(セメントミルク工法) プﾚｰｽﾞｰﾘﾝｸﾞ先端根固め 回転貫入 HiFBⅡ工法	TACP-0619 砂質地盤
場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc= セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOK SD	オールケーシング 掘底杭 日本建築学会認定	第 号 年月日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書 (有 ・ 無) (打ち込み ・ 載荷) 本

杭仕様				
杭径(mm)	設計支持力(KN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート ① コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5 による。 ② セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。 ③ 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。 ④ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。 ⑤ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から、取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。 ⑥ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5 T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。 また、打ち込み量が150m³を超える場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。 ⑦ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25度以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋 ① 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。 ② 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。 ③ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。 ④ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上とする。 ⑤ 外観検査 有 無、引張り検査 有 無、超音波探傷検査 有 無 ⑥ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、 H型(タガ型) W型(溶接型) S型(スパイラル型)とする。 ⑦ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。 試験機関名 代行業者名 代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠 ① 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ② 型枠存置期間

種類 部位 セメント 種類	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下			
平均 気温 の 範囲	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメント A種 シリカセメント A種	
	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの 圧縮強度	5 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%	

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による ① 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」 ② 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」 ③ ④ (2) 工事監理者の承認を必要とするもの ① 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書 ② 建設省告示第1103号による認定工場(Rグレード以上) ③ 材料規格証明書または試験成績書 ④ 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト スタッドボルト ⑤ 社内検査表 ⑥ (3) 工事監理者が行う検査項目 (印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること) ① 現寸検査 組立・開先検査 製品検査 ② 建方検査 ③ (4) 接合部の溶接は下記によること ① 東京都アーク溶接工事管理規準(建築構造設計指針第12章) ② 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章) ③ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

(5) 接合部の検査 ① 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数		備考
		社内	第三者	
突き合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	10%	0
	外観(目視)検査	100%	10%	100%
	マクロ試験・その他	0	0	0
第三者検査機関名				
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。				

① 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらかさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

① 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装 ① 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。 ② 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料 ①

7. 設備工事

① 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。 ② 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。 ③ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

① 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。 ② 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。 ③ 建築物に設ける屋根葺き材、外装材等には、構造耐力上安全なものとして、法適合確認を行いました。(建築基準法施工令第39条) ④ 建築物に設ける建築設備には、構造耐力上安全なものとして、法適合確認を行いました。(建築基準法施工令第129条の2の3)

岐阜県地方競馬組合

工事名 厩舎(岐南第4区画)新築工事

種別 鉄骨階段 構造設計標準仕様 図面番号 ST01/ST04

縮尺 ---- 作成年月 令和7年12月

設計者 Ai 設計室 有限会社

一級建築士氏名印 大臣登録244782号 杉山 雅章 印

出力 26 / 127

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d ……異径継手の呼び名に用いた数値 丸頭では径 D ……部材の径 R ……半径
f ……間隔 r ……半径 L ……中心線 L₀ ……部材間の内法距離 h₀ ……部材間の内法高さ
SP ……あばら筋 HOP ……帯筋 S HOP ……補強帯筋 φ ……直径又は丸頭

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度 90° はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む下形および形状のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d 以上	6d 以上(8d 以上)	8d 以上(8d 以上)	
折曲げ内法寸法 R は、SR235 は 5d 以上、SR235A SR295B SR295B の D10 以下は、3d 以上、D10 以上は 4d 以上				※片持ちスラブ端部の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度 90° 以下

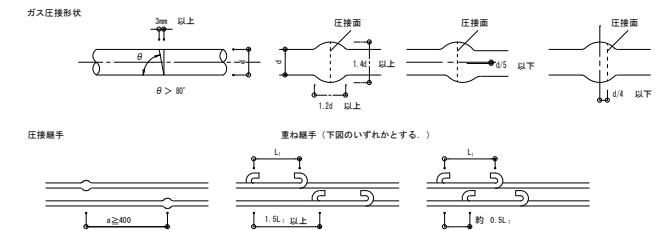
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法の寸法 (d)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SR235A、SR295B、SR295B	16 φ 以下 19 φ 以下 21 φ	3d 以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SR235A、SR295B、SR295B	16 φ 以下 19 φ ～ 25 φ 21 φ ～ 32 φ 35 φ ～ 38 φ	4d 以上 6d 以上 8d 以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₁)	下 端 筋 (L ₁)	ス ラ ブ	
SR235	21～36	40d	25d フック付	15m フック付	40d
	15～18	40d			40d
SR235A、SR295B、SR295B	21～36	40d	25d または	10d かつ	40d
	15～18	40d	15d フック付	15m 以上	40d

継 手

1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋継手長さとする。
4. D19 以上の異径鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
5. 鉄筋径の差が 5mm を越える場合は、圧接としてはならない。



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小のかぶり厚さを確保する。



かぶり厚さ

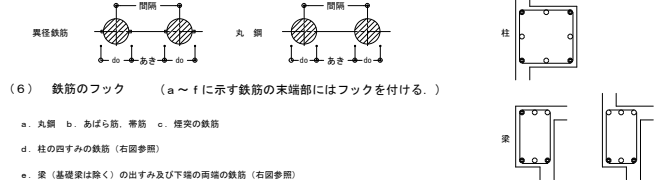
部 位	設 計	設計かぶり厚さ (mm)	最少かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内	30
	床スラブ	屋 内	30 (20)
	歩道側壁	屋 外	40 (1)
	柱	屋 内	40 (30)
土に接する部分	柱	屋 外	40 (30)
	耐力壁	屋 外	50 (1)
	橋 壁	屋 外	50 (1)
	柱・梁・床スラブ・耐力壁	屋 外	50 (1)

- 〔注〕 (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて 30mm とすることができる。
- (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて 30mm とすることができる。
- (3) コンクリートの品質及び施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて 40mm とすることができる。
- (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm 増しの値とする。
- (5) () 内は仕上げがある場合、改定により標準かぶり厚さは 10mm 増し

(5) 鉄筋のあき

丸頭では径、異径鉄筋では呼び名に用いた数値 1/5 以上

継ぎ材の最大寸法の 1/5 倍以上かつ 25 以上



(6) 鉄筋のフック (a～f に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。)

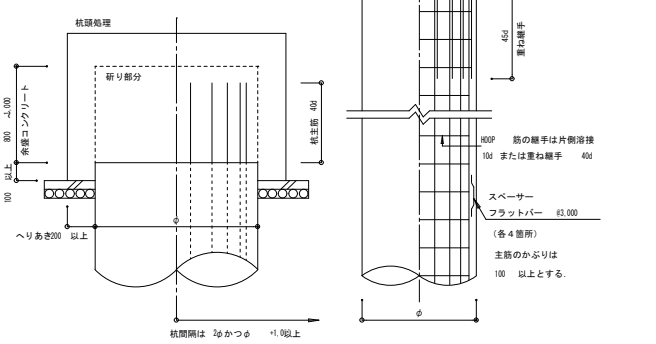
- a. 丸頭 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
- d. 柱の四すみの鉄筋 (右図参照)
- e. 梁 (基礎梁は除く) の出すみ及び下端の高端の鉄筋 (右図参照)
- f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

3. 杭

≪(1)≪P-C杭(節杭)≪又はP-H-C杭の全てに補強を行う≪

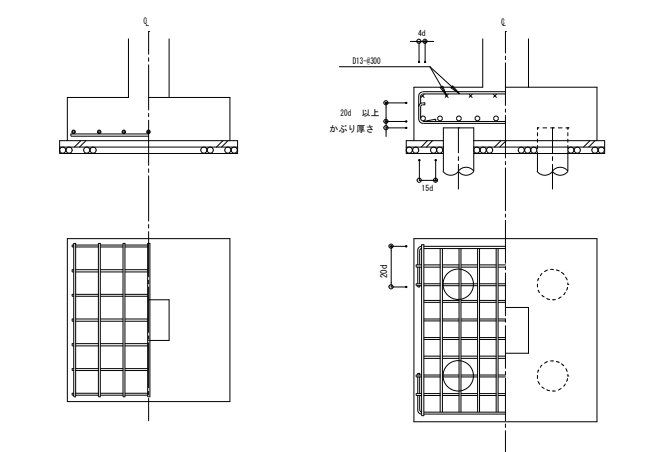
所定の位置に止まった場合	所定より短く止まった場合			
	補強筋	補強筋	補強筋	補強筋
杭 径	300 φ	350 φ	400 φ	450 φ ～ 600 φ
補強筋	4-D13	6-D13	8-D13	10-D16
HOP		D10-@100		D13-@100

≪(2)≪場所打ちコンクリート杭≪

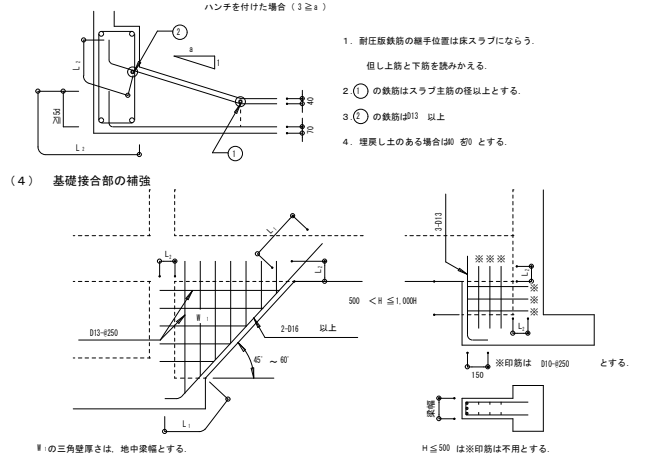


4. 基礎

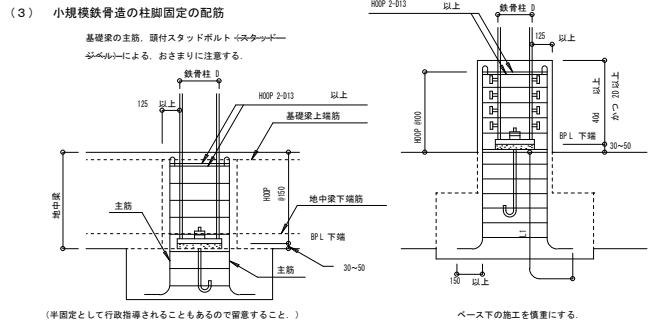
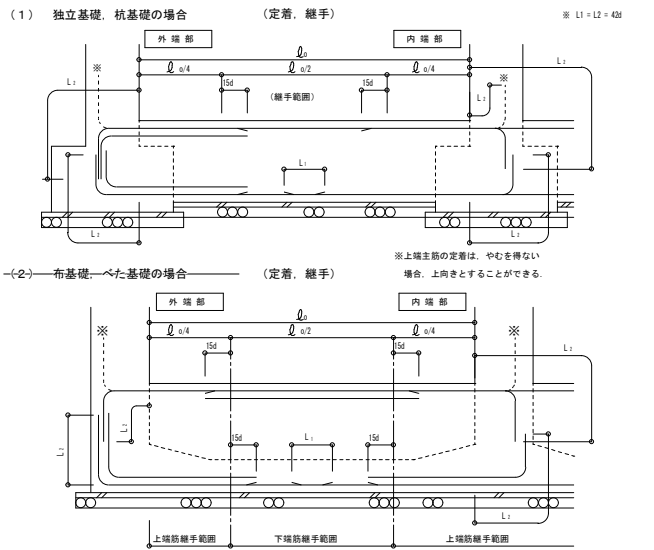
(1) 直接基礎



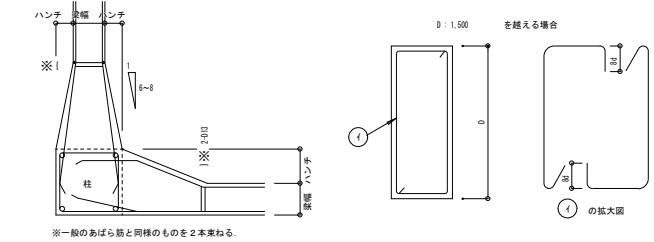
≪(3)≪べた基礎≪



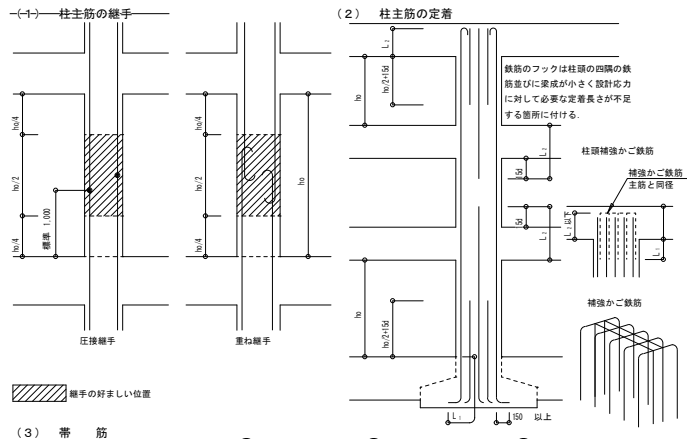
5. 基礎梁



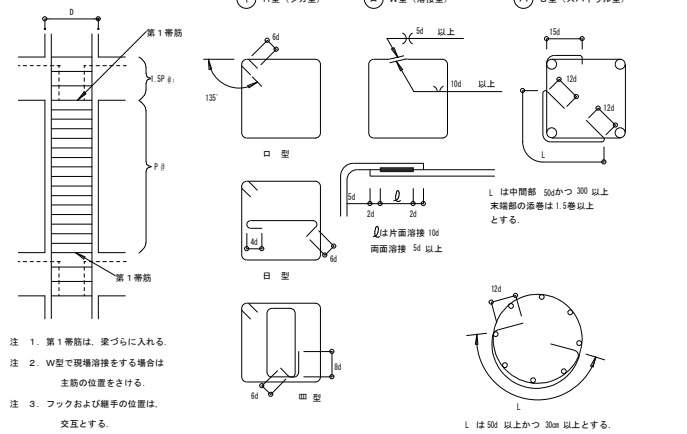
≪(4)≪水平ハッチの場合のあばら筋加工要領≪ (5) 大梁のあばら筋加工要領



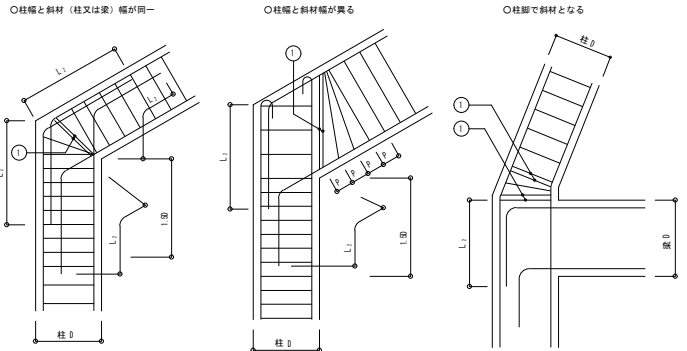
6. 柱



(3) 帯 筋



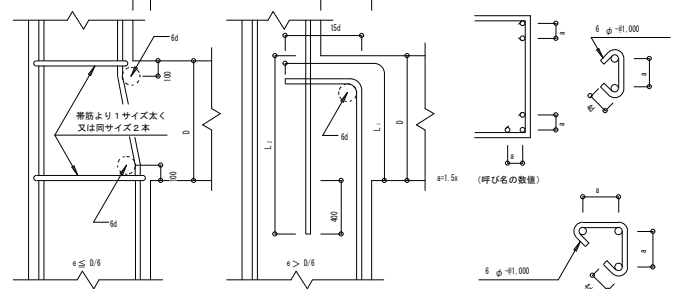
≪(4)≪斜め柱・斜め梁≪



注1: 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとしφ100以下とする

注2: ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

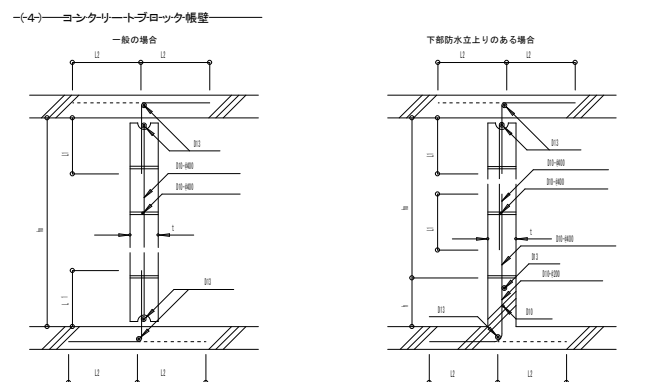
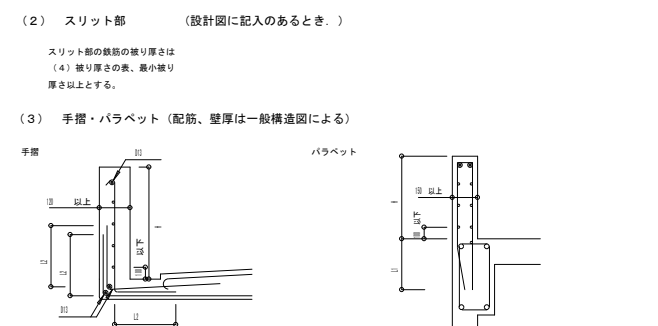
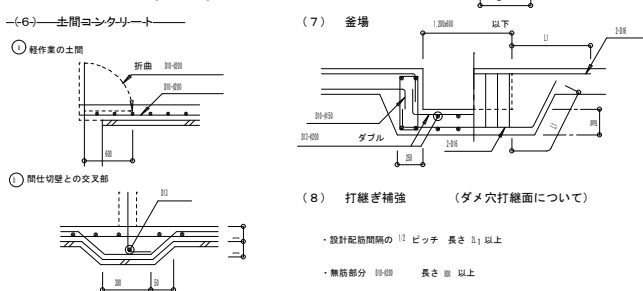
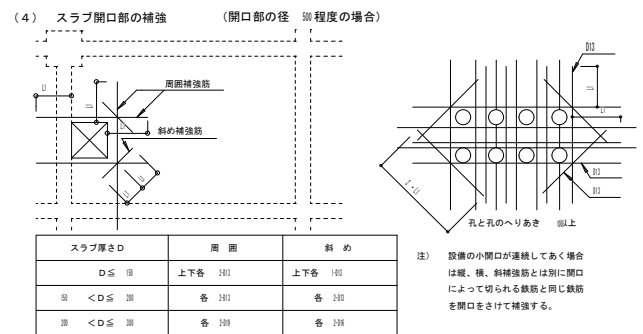
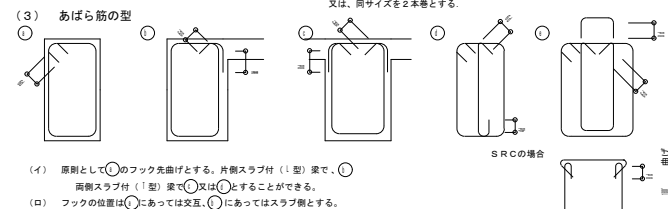
≪(5)≪一般リ



岐阜県地方競馬組合

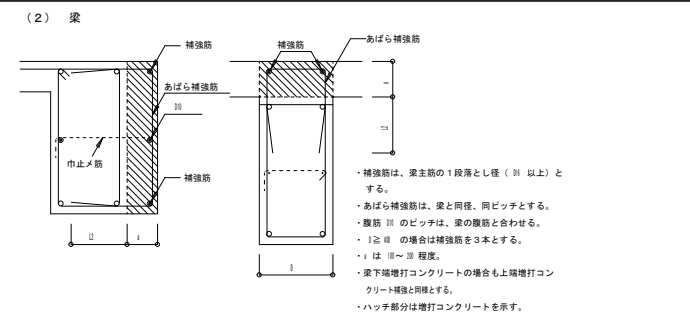
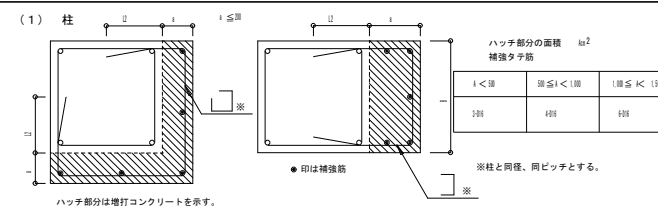
工事名	厩舎(岐南第4区画)新築工事		
種 別	鉄骨階段 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	図面番号	ST02/ ST04
縮 尺	---	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		

9. 壁

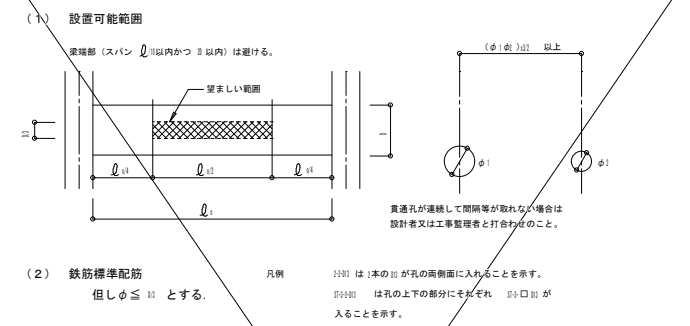


注) $h \leq 50$ かつ 100 以下とする。但し直交方向 h 以内に壁、又は柱がある場合は除く。
 注) b はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、 $h \leq 100$ かつ 100 以下とする。
 注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること。

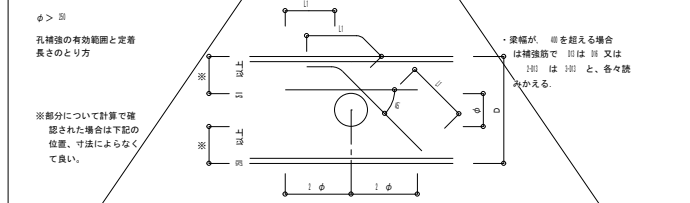
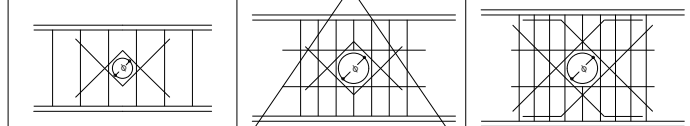
増打するときは事前に設計者、
(及び工事監理者と打合わせの事。



(1) 設置可能範圍



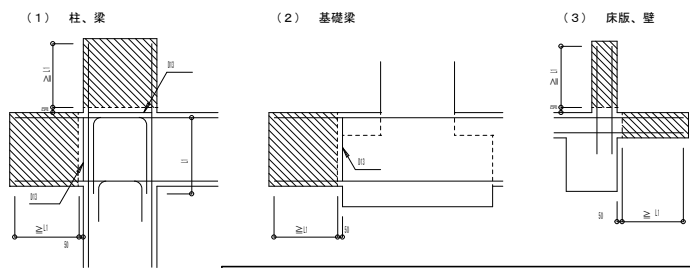
<p>折筋 1000</p> <p>縦筋 1000</p>	<p>折筋 1000</p> <p>縦筋 1000</p> <p>横筋 1000</p>	<p>斜筋 4000</p> <p>縦筋 1100(80)</p> <p>横筋 1000</p> <p>上 縦筋 1100</p> <p>下</p>
-------------------------------	--	--



(3) 既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合わせのこと。)

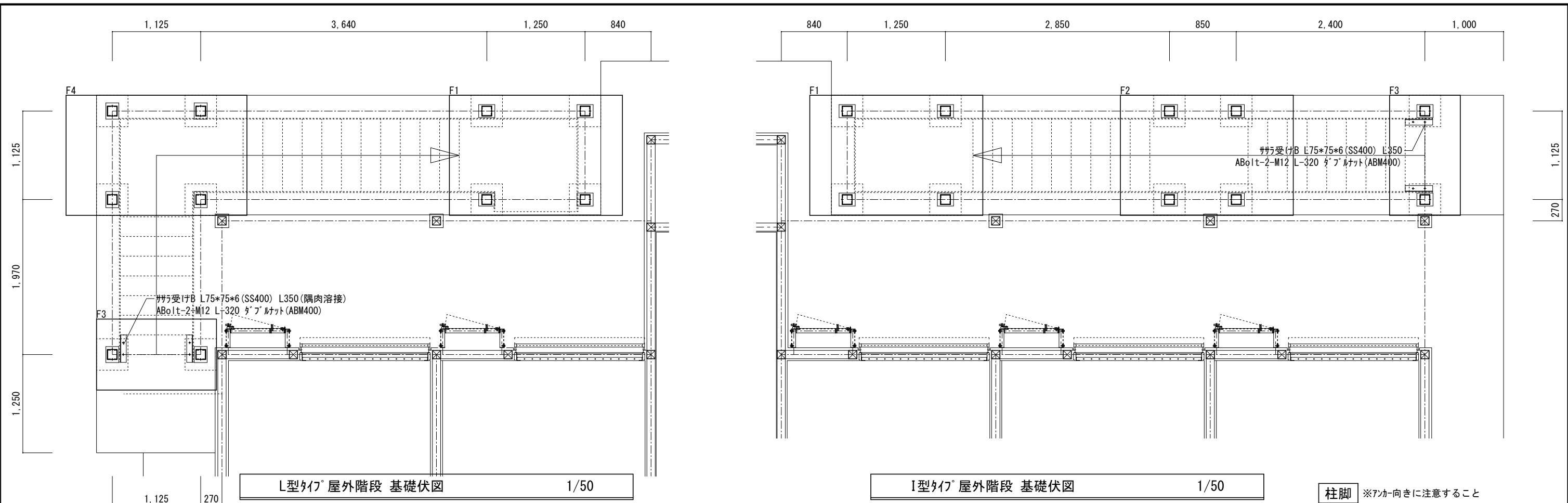
☐リング型 ☐パイプ型 ☐金網型 ☐プレート型

将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する。

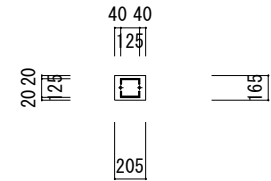


岐阜県地方競馬組合

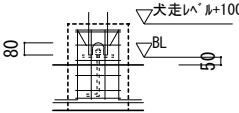
工事名		厩舎(岐南第4区画)新築工事		
種 別	鉄骨階段 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)		図面番号	ST03/ ST04
	縮 尺	-----	作成年月	令和7年12月
設計者		Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印		大臣登録244782号 杉山 雅章 印		



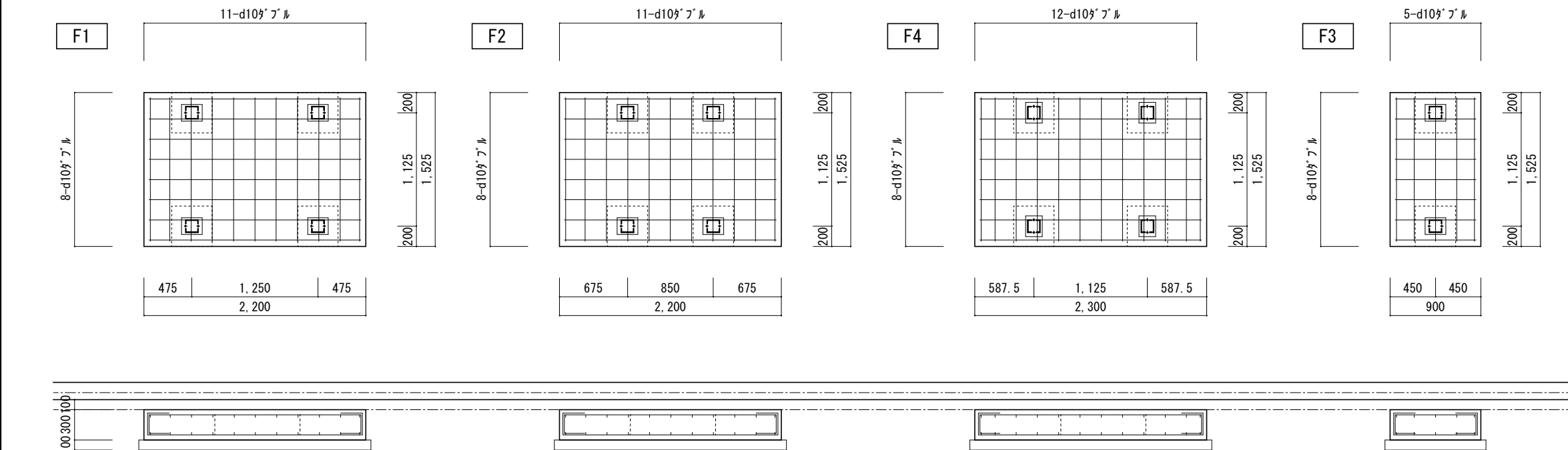
柱脚 ※アソカ向きに注意すること



BPL-205*165*12 (SN490C)
ABolt-2-M16 L-320 ダブルナット (ABM400)
主筋: 12-d13
HOOP: d10@100
頂部: 2-d13



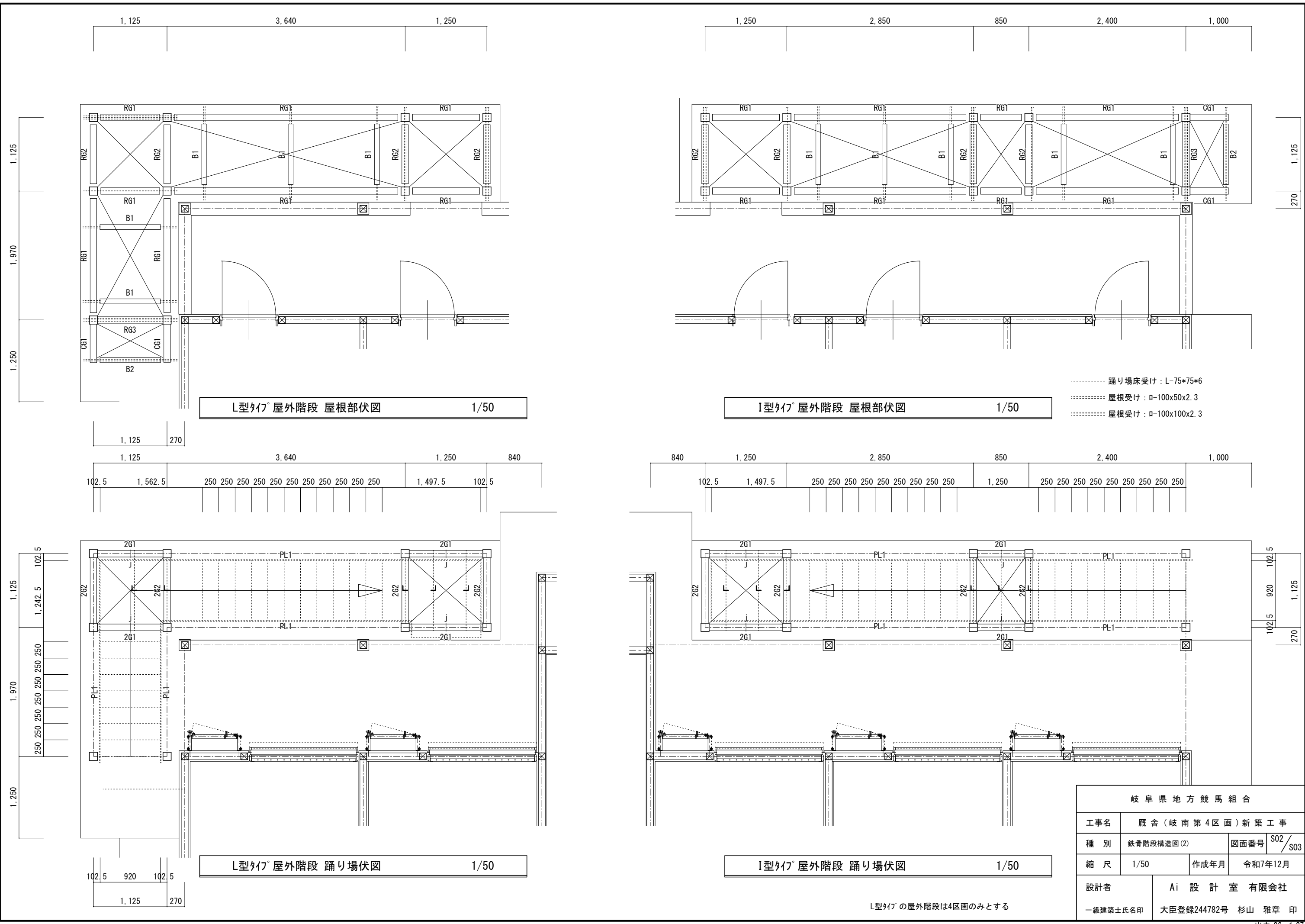
※特記仕様
基礎、コンクリート等
設計基準強度: Fc21 S18
許容地耐力: Fe=20kN/m² (長期)
木造基礎一体打とする

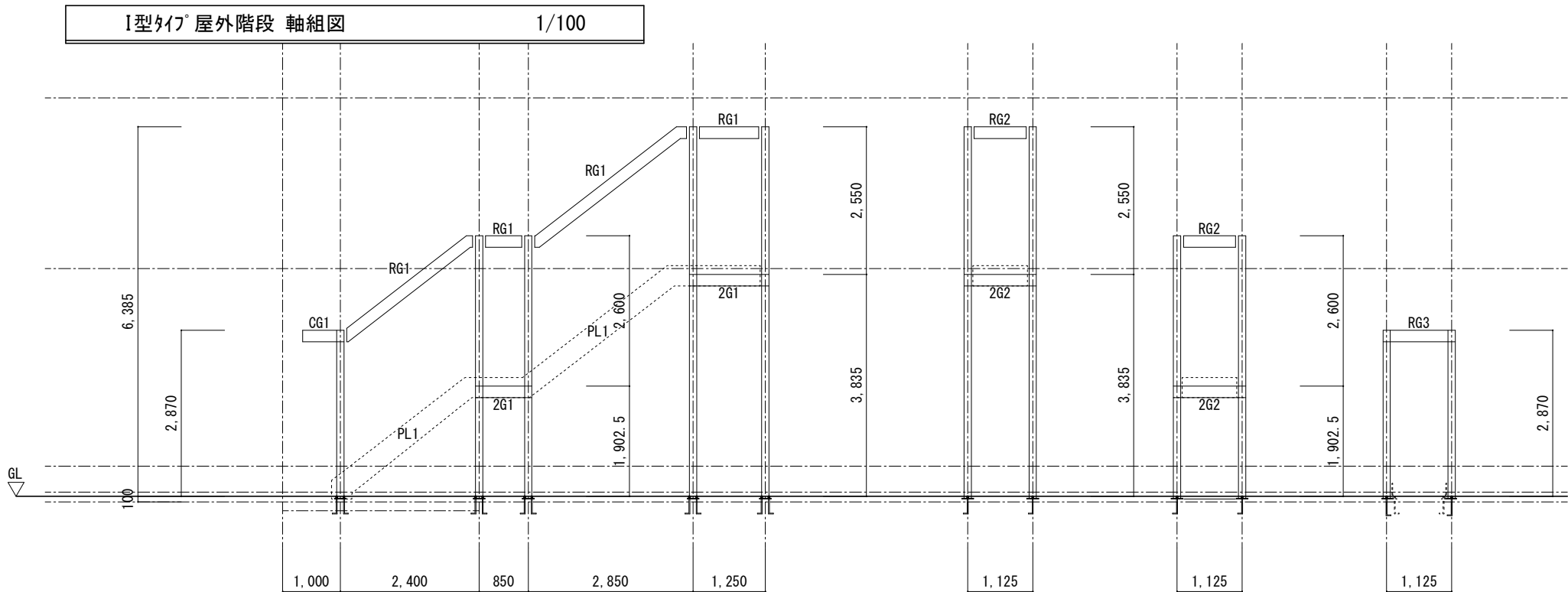
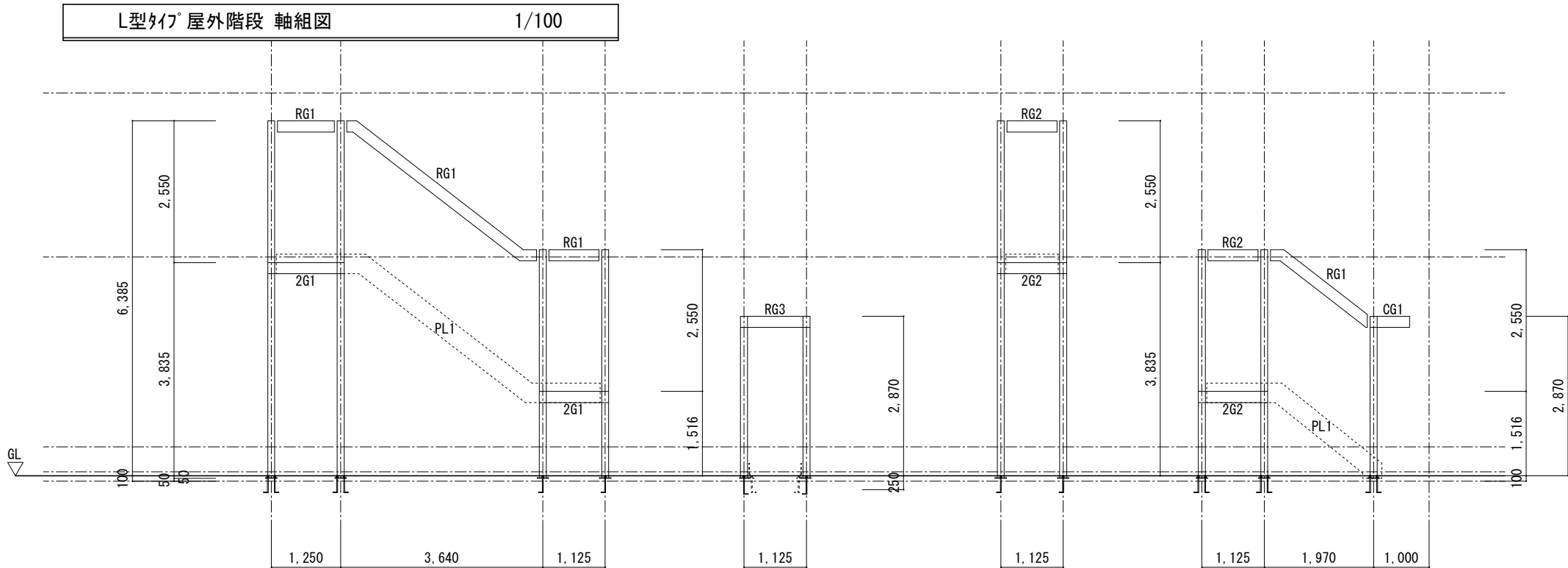


基礎詳細図 1/50

L型ﾀｲﾌﾟの屋外階段は4区画のみとする

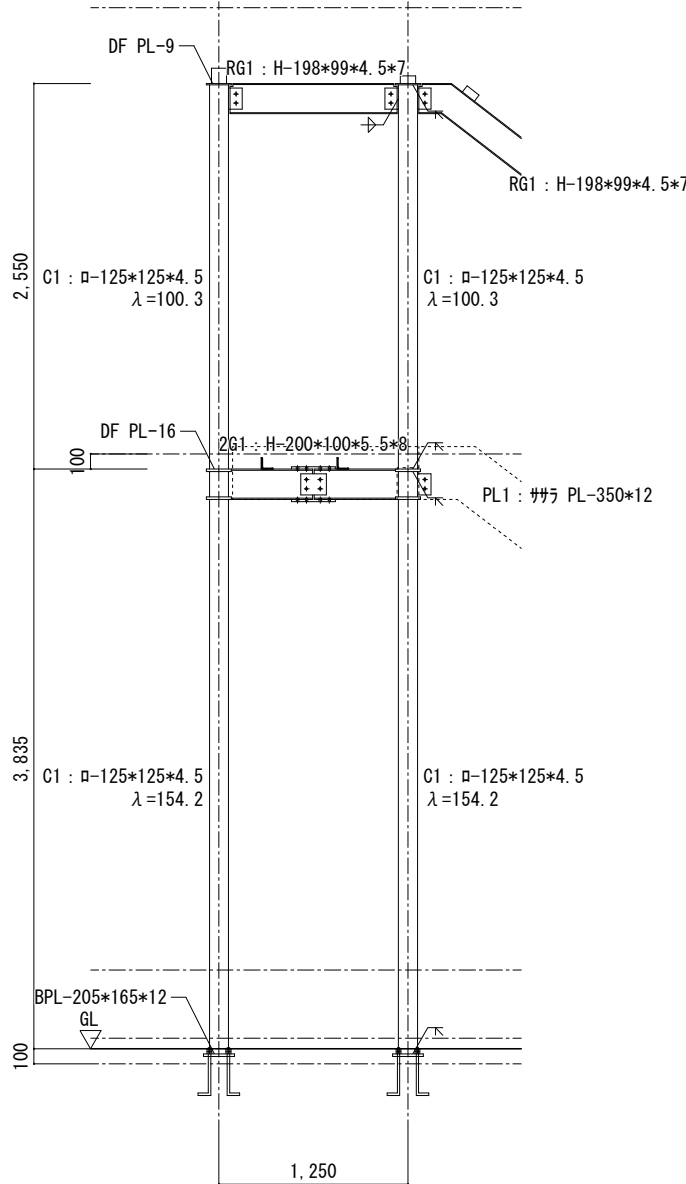
岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎(岐南第4区画)新築工事		
種別	鉄骨階段構造図(1)	図面番号	S01/S03
縮尺	1/50	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設計室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		





※特記仕様
鋼材
C1 : □-125*125*4.5 (STKR400) ※特記無き限りC1とする
RG1 (2) : H-198*99*4.5*7 (SS400)
GPL-6 2-M16 (E'ン接合)
RG3 : H-200*100*5.5*8 (SS400)
F: 突合せ溶接, W: 隅肉溶接 (剛接合), 工場溶接
2G1 (2) : H-200*100*5.5*8 (SS400)
継手 FPL-16*100*290*2 16-M16
WPL-6*140*170*2 4-M16
CG1 : H-198*99*4.5*7 (SS400)
F: 突合せ溶接, W: 隅肉溶接 (剛接合)
B1 : H-150*75*5*7 (SS400) GPL-6 2-M16
B2 : H-198*99*4.5*7 (SS400) GPL-6 2-M16
PL1 : ササ PL-350*12 (SS400) GPL-12 2-M16
水平プレート : M12
外部鉄骨は全て溶融垂鉛メッキとする
メッキ ルト : F8T

階段基礎ベ-スは厩舎本体の基礎と一体打設とする



屋外階段 鉄骨詳細図 1/50

岐阜県地方競馬組合			
工事名	厩舎(岐南第4区画)新築工事		
種 別	鉄骨階段構造図(3)	図面番号	S03 / S03
縮 尺	1/100, 1/50	作成年月	令和7年12月
設計者	Ai 設 計 室 有限会社		
一級建築士氏名印	大臣登録244782号 杉山 雅章 印		

L型タイプの屋外階段は4区画のみとする